雪解の野辺に萠え出でしゅきげ のべ も 生命の争闘敗れじといのちいくさやぶ

若き力のよろこびは 伸展ゆく生命思ふとき 浅緑なる若草のあざみどり

我等が胸に溢るなり

声を聞きつつ逍遙 悲哀誘ふ郭公のかなしみさそ

うつろひやすき若き日を 黒百合咲けど春いづこ

盧生の夢となすなかれ の夢となすなかれ 今は小暗き木下闇

へば

想ひぞ馳する北欧州 今うすれ の跡の夕まぐれ ゆく赤陽に

仰げば高たたか 牧場に虫の音も淡く のし秋の空

雄ラこん 肥馬原頭に 崇き理想を胸にして たか りそう むね 生くる喜悦謳ふ哉 の気はあふれつつ いいななきて

几

寂しく暮るる手稲山 曠野に凋落の秋更けて の てうらく あき た 眺めはてなき石狩のない

嗚呼北州の 先人建てし自治寮の世んじんた じちりょう 精神を磨く友どちよ 尚き生命に生きなんと 自然の教訓学びつつ

しぜん をしへまな き歴史伝へかし の春秋に

音も淋しく行く橇の 吹く風膚にしみ

寒月高く冴ゆる夜半 大雪原に消ゆるときだいせつげん。 瞑想ぞ如何に深からん\*\*\*\* 哀愁をこむる若人の

小峰三千男君 正男君 作曲 作歌